

洋画 池知 隆『大地』



洋画 松村哲夫『白いネグリジェの子供』

◆洋画◆

特選

池知隆(大地)『大地』松村哲夫(大地)『白いネグリジェの子供』

褒状

吉川秀子(三喜)『人物』唐岩秀(八喜)『旅No.6』宮崎寿子(高知市)『落葉舞う』

奨励賞

浜田清貴(立田)『凝固する時』

刻・アリス

無鑑査

山崎次(大地)『セコピアの月』『潮かおる』田島哲二(大地)『港が見える』橋詰正利(植田)『風景』細川義彰(上野田)『下レドの街角』島村義一(片山)『紅葉の頃』

地域なりのレベルで全体の作品に大きな格差のないことは、この

第19回 南国市展

第19回南国市美術展は、11月23日から12月2日までの10日間(市制施行20周年記念として期間を例年より2日延長)市民体育館で開かれました。

今回の搬入作品数は、一般244点、児童の部12,878点。一般の部の審査は、筒井広道・横矢勝(洋画)、門谷南嶺(日本画)、平山昌幸(漫画)、田中白歩(書道)、筒井広道(彫塑・工芸)、仲峰三(商業美術)、田口吉明・高芝晴喜(写真)の各部門の審査員によって行われ、特選8点、褒状12点、奨励賞9点、入選183点が選ばれました。また、幼児・児童・生徒の部は特選222点、入選2,490点でした。

地域のレベルの高さを示し、それぞれ楽しみながら精進していることが感じられて喜ばしい。欲をいえば、芸術が人間自身の生きざまの現れであり生命力の表現である限り、今一層たくましい勇気と冒険を試みてはどうか。そうした面から、小品が多く、描写力のあると思われるのにテーマに制約され、迫力、主張の弱いものになっているのは惜しい。大作主義をとるものではないが、自分の思想、主張がはっきり表現できる大きさを考えてほしい。

あるから描くのではなく、あらしめるための思考、はげ、工夫を考へるべきであると思う。専門家としてではなくても、やはり表現の武器としてデッサン力も大切にみがいてほしい。すばらしい感覚の持ち主だと思われるのに舌足らずのはがゆさを感じる作

品や、地肌の美しさに無関心な作品も目についた。しかし、日常生活に溶けこんだ制作態度がよくうかがえる展覧である。

◆日本画◆

特選

吉永三重(高知市)『幼ない祈』

褒状

北村真紀(立田)『牡丹』野口須磨子(下野田)『ほうすき』

奨励賞

田島哲二(大地)『ふるさとの山に向って』

無鑑査

伊尾木正太郎(折年)『雨後』『牡丹』橋詰正利(植田)『風景』

評

基礎となる写生が十分良くなっている。彩色については厚塗りの作品もあるが、日本画の絵具で油絵風は感じない。日本画独特の岩絵具を美しく彩色してほしい。岩絵具と「にかわ」の関係をもっと勉強すること。絵具ひとつにも



日本画 吉永三重『幼ない祈』

なかなか複雑な課程を経なければならぬが、これが一番大切なことだ。◆漫画◆

奨励賞

葛目義人(岡豊町)『大平凡われ舟で出航』

無鑑査

沢本英世(里改田)『重大なる過失』『抗争』『けしこむ怪獣大行進』『証人登場』

評

昨年に比して不作為、残念ながら選をするのに苦労した。何かマンガの原点がピンボケになっているようだ。最近の社会環境にはマンガの種がいくらでもあるような気がするのに、劇画、アニメーション、イラストなどと混同されて、ピリッと風刺のきいた「コママンガ」の登場が望まれる。高知マンガ集団の協力が昨年に比べて少なかったのも残念の一つ。その点、無鑑査の沢本英世氏の出品四点ともいずれもなるほどと感心する作品ばかり、政治家の似顔も達者なものである。

若い方々へ――描画力は素晴らしいものがある。しかし、あくまでもマンガはアイデアと描画力が車の両輪とならなければならぬ。風刺、ユーモア、ナンセンスギャグなどを織りまぜて、笑いのなか

にギクツとするものを描きあげてもらいたい。巻(ちまた)に氾濫する劇画、アニメーション、イラストと、漫画はつきり一線を画しているはずだから……。

◆書道◆

特選

岩原教子(白木倉)『ぶりぶりした日』橋田影月(東崎)『養陽曲』

褒状

岡田咲苑(後免町)『吉井男の歌』毛利悠映(大地)『遠』小川咲華(上野田)『長塚節の歌』

無鑑査

川内悠深(大地)『水月』弘末咲華(里改田)『奥野島子の歌』

評

独りよがりのような作品がなく、全体にツブがそろっていて練度の高いものが見られた。漢詩、平安がな、少字数現代詩文とそれぞれ水準作が出そろって、本展の幅の広さをうかがわせた。安定した技術の中でのみ仕事でなく、それを打ち破る精神を望みたい。

◆商業美術◆

特選

宮崎寿子(高知市)『学級文集紹介』

褒状

杉村吉彦(高知市)『未知の世界』森岡清(下野田)『観光ボスタ』

無鑑査

岩原教子(白木倉)『ぶりぶりした日』

評

出品作品の三分の一程度は、一定の水準に達しているといえよう。特に数点は独創性に富み、将来が楽しみである。難点としては、なかに他の作品の模写におわっている場合があり、今後注意されたい。また、文字の書体、内容、配置などはまたかなり練習、努力を必要



5年2組 ぼくたちの文集 浜辺小学校

商業美術 宮崎寿子『学級文集紹介』

とする。機械類を扱った作品も数点あるが、よりシャープな表現を望む。また、出品者層がもっと広がることを期待する。

◆彫塑工芸◆

奨励賞

北村真紀(大地)『ろうけつ染壁掛』中村香代子(東崎)『ぶどう』岡田万里子(上野田)『茶碗』市職作家集団『文明への警告』

評

彫塑・工芸部は出品点数そのものからみれば、洋画など他部門に比較して少ないとはいえない(彫塑は別として)が、質的に低調な感がある。というのは、『工芸』がただ何らかの材料を使って手わざを見せるものではなくて生活の用と美を求める創作であるかきりこの性格から逸脱した傾向の作品が多いからである。ただし、これは当市展のみでなく県下各地の市展にも指摘されるものではある。市展は市民のもの、できるだけ多くの人が楽しんで物を作り、そ

れを発表する場でもあるから、あまりむつかしく考えないで今後出品を期待したい。そうしたなかで、みんなで工芸といふものを考えてゆき、また適当な指導者を求めてゆくようにすればよいと思う。

◆写真◆

特選

渡辺健一(土佐山田町)『ドー』西内儀児(下野田)『石仏』

褒状

北村起章(立田)『遊戯』松村隆盛(明見)『吹雪の高野山』城建太郎(香我美町)『山峡』

奨励賞

西内良子(下野田)『黒い鏡』

無鑑査

山本清志(高知市)『出番待ち』竹内律一(里改田)『霧のある風景』土居正道(立田)『トレドの街』水田貴士(岡豊町小笠)『春色』原孝士(土佐山田町)『てれる新郎』

総体的にみて作品は平行線をたどった内容のものが多かった。同人出品作のなかに上下の差のあるもの、同様の写真を出品されている方、半切以上の出品規定になっているのに四ツ切で出品されている方の分は一応除かせていただ

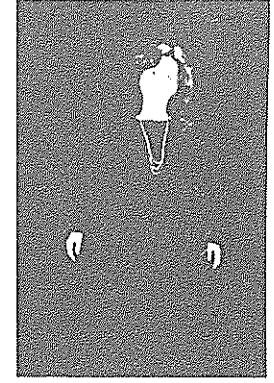


写真 渡辺健一『ドー』



写真 西内儀児『石仏』

た。なかには独創性に富んで努力のあとが見られるのにピントのあまみや仕上げ不良のものがあつた。組写真ももう一歩進んでまともな方を研究してほしい。全体的にいえば、構力のある独創性に富んだ作品で、仕上げの完璧さをねらってほしい。

作者の意図した作品のなかから第三者がみて何を訴えているか、画面のなかに躍動して流れ出る物語りがなければ胸をうち、感動を与え作品とはいえないと思う。時間の盛込み方を考えるべきだ。